

無堤部の築堤等の対策を

最上川氾濫被害を現地調査

足立参院議員



説明を受ける足立議員(左から2番目)

足立敏之参院議員は、7月27日から29日にかけての豪雨によって、最上川が氾濫したこと被災した山形県を8月5日に訪れ、現地を調査しその結果をまとめた。今回の豪雨では、山形県内の各観測所で異例の降雨量を観測。例年7月の降雨量が270ミリの湯殿山雨量観測所(鶴岡市)では、累加雨量280ミリの観測し、わずか2日間で例年7月の雨が降り既往最大を記録した。今回は300ミリの超過する地域もあり、4つの主要水位観測所で計画高水位を超過し、観測史上最高の水位を更新している。中でも、大石田観測所(大石田町)では、これまでの既往最高水位を約1.7倍上回り、さらに計画高水位を約0.7倍超過。こうしたことによ



銅山川の勢いで洗掘された河川と道路の応急復旧

日本三天急流の1つに数えられる山形県の最上川では、堤防からの越水5か所(村山市1か所、大石田町3か所、大蔵村1か所)、溢水1か所(大江町)が発生、各地に大きな爪痕を残した。足立議員は、白鷹町の国道348号崩落箇所や、大江町の左沢(あらざ)地区で床上浸水が生じた無堤部、県管の白川堤防決壊箇所、大石田町などを調査。中でも大蔵村塩地区では、最上川水系の銅山川の勢いで、河川と道路が激しく洗掘されている状況を目の当たりにした。こうした被害が生じつつも、今回の水害では死者数はゼロ。地元市町や町長、村長などの話によると、直前の球磨川決壊の被害をニュース等で知っていただけに、その教訓が生かされ、避難勧告が出たからだと話す。今回の調査を通して足立議員は、被災地域にこれからダムを造る地点はないことや、河川整備の途上で順番によって無堤部が本川にも存在する点を指摘。下流部で洪水を流す能力を高めつつ無堤部を築堤することや、ハードもソフトも組み合わせ、本川・支川をバランスよく治水していく必要性を指摘した。また、今回の調査では、既存の直轄ダムも視察。91年に完成した寒河江ダムを訪れた。今回の豪雨でダム完成以来、最大の流入量1283立方メートルを記録したものの、下流への放流は最大で261立方メートルにとどめ、下流の寒河江市西根地区の水位を1.6倍低下させる効果を発揮したと話す。同様に、最上川上流の直轄の白川ダム、長井ダムが効果を発揮したことも確認しており、ダムの重要性を改めて強調した。

り、熊本県の球磨川、静岡県富士川と並んで、

所、大石田町などを調査。その中でも大蔵村塩地区では、最上川水系の銅山川の勢いで、河川と道路が激しく洗掘されている状況を目の当たりにした。こうした被害が生じつつも、今回の水害では死者数はゼロ。地元市町や町長、村長などの話によると、直前の球磨川決壊の被害をニュース等で知っていただけに、その教訓が生かされ、避難勧告が出たからだと話す。今回の調査を通して足立議員は、被災地域にこれからダムを造る地点はないことや、河川整備の途上で順番によって無堤部が本川にも存在する点を指摘。下流部で洪水を流す能力を高めつつ無堤部を築堤することや、ハードもソフトも組み合わせ、本川・支川をバランスよく治水していく必要性を指摘した。また、今回の調査では、既存の直轄ダムも視察。91年に完成した寒河江ダムを訪れた。今回の豪雨でダム完成以来、最大の流入量1283立方メートルを記録したものの、下流への放流は最大で261立方メートルにとどめ、下流の寒河江市西根地区の水位を1.6倍低下させる効果を発揮したと話す。同様に、最上川上流の直轄の白川ダム、長井ダムが効果を発揮したことも確認しており、ダムの重要性を改めて強調した。